

《公共事業の効果等について》

○資料4－1

地方港湾改修事業…………… [港湾課]
(星賀港星賀地区・行田山地区)

○資料4－2

県営地域水田農業支援緊急整備事業…………… [農地整備課]
(大詫間地区)

○資料4－3

地域防災対策総合治山事業…………… [森林整備課]
(田頭地区)

○資料4－4

連続立体交差事業…………… [都市計画課]
(JR佐世保線(武雄温泉駅付近))

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

- 事業名： 地方港湾改修事業（資料 3 - 3 事業番号 1）
- 路線名又は箇所名： 星賀港星賀地区・行田山地区
- 事業の概要
 - 工 期：平成 3 年度～平成 2 2 年度
 - 事 業 費：約 3 3 億円
 - 事業内容：岸壁（- 5. 5 m） L = 1 4 0 m
 - 泊地（- 5. 5 m） A = 4, 9 0 0 m² V = 2 3, 1 0 0 m³
 - 防波堤（西） L = 1 2 0 m
 - 臨港道路 L = 8 5 9 m

【公共事業の効果等】

- 岸壁（-5.5m）が整備されたことにより、港内における大型貨物船と漁船の輻輳が解消し、航行安全性が向上した。
- 防波堤が整備されたことにより、港内の静穏が確保され、船舶の航行及び係留作業等の安全性・効率性の向上が図られた。
- 臨港道路が整備されたことにより、星賀港利用車両の交通の円滑化が図られ、生活道路としての地域住民の生活環境が改善された。

【事業実施前の状況等】

- 星賀港内の利用船舶隻数の増加や船舶の大型化等により、本港の利用船舶が輻輳し、航行安全上、大きな問題となり地元を中心に、効率的な港湾利用と安全性の向上のための整備が要請されていた。
- また、離島航路発着所と連絡する臨港道路が無く、物揚場のエプロン敷を道路兼用として利用し、しかも民家密集地を通るという悪条件であり、沿線住民の生活道路と港利用者を分離するため、臨港道路の新設が要請されていた。

【事業実施後の状況や県民の声など】

- 本港内での大型貨物船と漁船等の輻輳が解消され、航行の安全性が向上し、異常波浪時における船舶の安全な避泊、係留が可能となった。
- 臨港道路整備前は人家密集地を通る幅員狭小な道路を利用していたが、臨港道路の整備により星賀港利用車両の交通の円滑化と生活道路として、沿線住民の生活環境の改善が図られた

公共事業に係る効果等について

地方港湾改修事業

星賀港 星賀地区・行田山地区

(港湾課)

○背景と目的

○事業背景

- 星賀港内の利用船舶隻数の増加や船舶の大型化により、大型貨物船と漁船との輻輳が生じ、航行安全に大きな支障を来していた。
- 台風や発達した低気圧の高波により港口からの侵入波により港内静穏性が確保されておらず、異常波浪時の船舶航行や係留作業に危険が生じていた。
- 向島離島航路発着所と連絡する臨港道路が無く、物揚場のエプロン敷を道路兼用として利用し、しかも民家密集地を通るという悪条件であり、沿線住民と港利用者の輻輳が生じていた。

○事業目的

- 大型貨物船と漁船の輻輳を解消し、航行安全性の向上を図るため大型貨物船の休憩岸壁を整備。
- 港内の静穏を確保し、船舶の航行及び係留作業等の安全性、効率性の向上を図るため、防波堤を整備。
- 臨港道路を整備することにより、星賀港利用車両の交通の円滑化と生活道路の生活環境の改善を図る

○事業概要

○事業名 地方港湾改修事業

○箇所名 星賀港 星賀地区・行田山地区

○所在地 唐津市肥前町

○工期 平成3年度～平成22年度

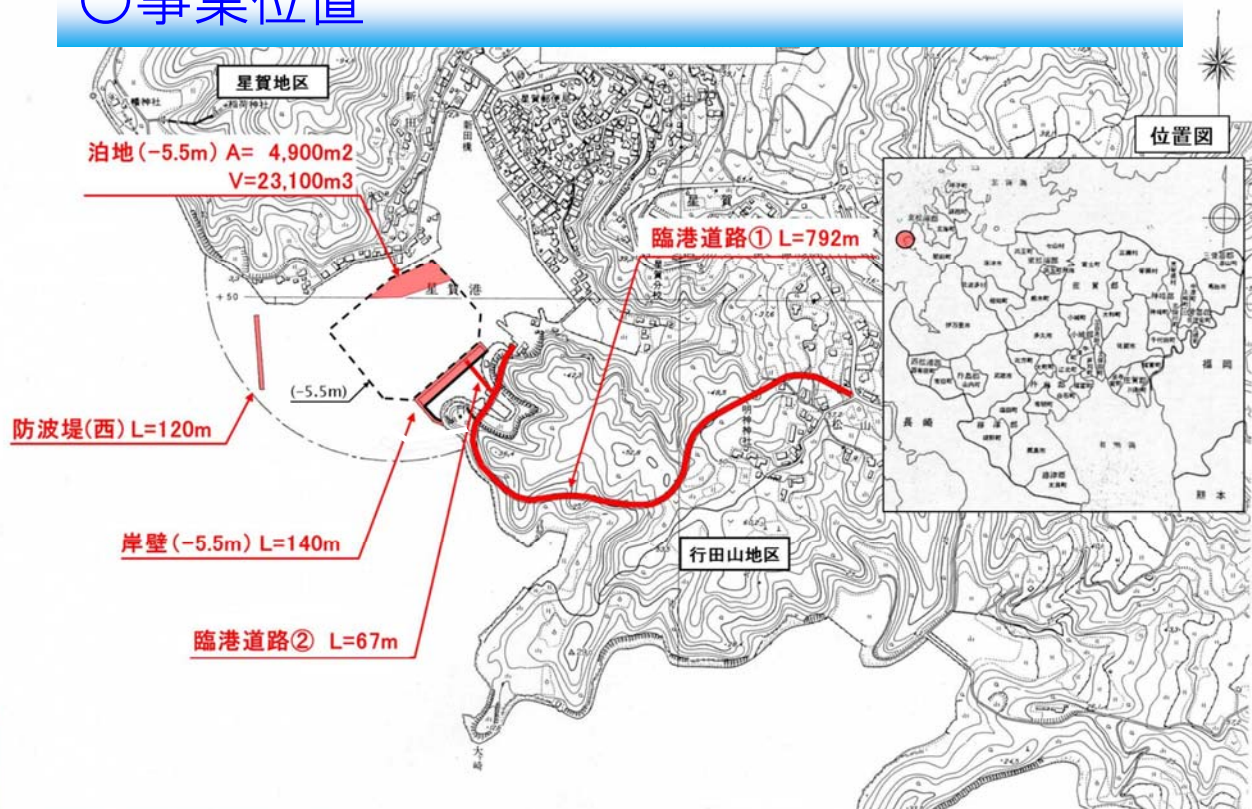
○総事業費 約33億円

○事業内容

- ・岸壁(-5.5m) L=140m
- ・泊地(-5.5m) A=4,900m² V=23,100m³
- ・防波堤(西) L=120m
- ・臨港道路 L=859m

地方港湾改修事業(星賀港星賀地区・行田山地区)

○事業位置



地方港湾改修事業(星賀港星賀地区・行田山地区)

○事業位置



○事業効果（波及効果）の発現状況

【大型船と漁船の輻輳解消】

岸壁(-5.5m)が整備され、大型貨物船係留施設を湾奥部から港口部の新設岸壁に変更したことにより、湾奥部での大型貨物船と漁船の輻輳が解消し、航行安全性が向上した。

整備前の状況



整備後の状況



地方港湾改修事業(星賀港星賀地区・行田山地区)

○事業効果（波及効果）の発現状況

【港内の静穏の確保】

防波堤が整備されたことにより、異常波浪時の高波抑制効果で港内の静穏が確保され、船舶の航行安全性及び係留船舶の安全性の向上が図られた。

整備前の状況



整備後の状況



地方港湾改修事業(星賀港星賀地区・行田山地区)

○事業効果（波及効果）の発現状況

【星賀港利用車両の交通の円滑化】

臨港道路が整備され生活道路と港湾利用者を分離した事により、星賀港利用車両の交通の円滑化が図られたとともに、地域住民の生活環境が改善された。



地方港湾改修事業(星賀港星賀地区・行田山地区)

○施設の維持管理状況

- 港湾施設の管理は、県（唐津土木事務所）が行っている。
- 施設を長期にわたって有効活用するため、維持管理計画を策定し、計画的かつ適切な維持管理に努めている。
- 維持管理状況に起因する問題は生じていない。



岸壁(-5.5m)



防波堤



臨港道路

地方港湾改修事業(星賀港星賀地区・行田山地区)

○地域住民等県民の意見

- 岸壁が整備されたことで、港内で大型船舶と漁船が接近することがなくなり、漁船が安心して通行できるようになった。
- 防波堤が整備されたことで、以前に比べると台風などの波浪時に港内の波が穏やかになったので、漁船を安心して係留できるようになった。
- 臨港道路の整備により、生活道路の交通量が減少し、生活環境が改善された。

○改善措置の必要性

- 事業目的が効果が適切に発揮しており、現在のところ改善すべき点はない。

地方港湾改修事業(星賀港星賀地区・行田山地区)

【事業名、地区名、事業概要】

- 事業名： 県営地域水田農業支援緊急整備事業（資料 3 - 3 事業番号 1 0）
- 路線名又は箇所名： 大詫間地区
- 事業の概要
 - 工 期： 平成 1 8 年度～平成 2 2 年度
 - 事 業 費： 2 7 9, 7 6 7 千円
 - 事業内容： 暗渠排水 A = 3 2 9. 3 h a

【公共事業の効果等】

- 農地の排水条件の改善に伴う畑作物の収量増、作付面積の増。
- 乾田化により大型機械の導入が可能となり、労働時間が短縮。
- 上記により優良農地となったことから、作付けの集団化が図られ、担い手農家への農地集積が促進。

【事業実施前の状況等】

- 既存の暗渠排水施設の劣化（疎水材（もみ殻）の腐食、吸水管の変形・目詰まり）により乾田化が図れず、麦・大豆等の生育が悪く、収量が低下した。
- 収益性の高い畑作物の導入が進まなかった。
- 排水不良の水田では、降雨後の機械作業ができず、適期での播種作業等に支障を来していた。
- 上記による長期的な営農への不安から、農地集積が進まなかった。

【事業実施後の状況や県民の声など】

- 農地の排水条件が改善し乾田化したことから、大型機械が導入され、労働時間が短縮されている。
- 畑作物の生育向上により収量が増加した。
- 露地野菜や施設栽培野菜の作付けが増加した。

（農家の声）

- 作物の生育が良くなり収量がアップした。
- 耕起等の作業が適期に行えるようになった。
- 乾田化したことで田面の雑草繁茂が減少した。
- 担い手農家への農地集積が進み、大型機械の導入や用水管理が楽になった。
- 弾丸暗渠を実施し暗渠排水の効果が十分発現できるよう取り組んでいる。

公共事業に係る効果等について

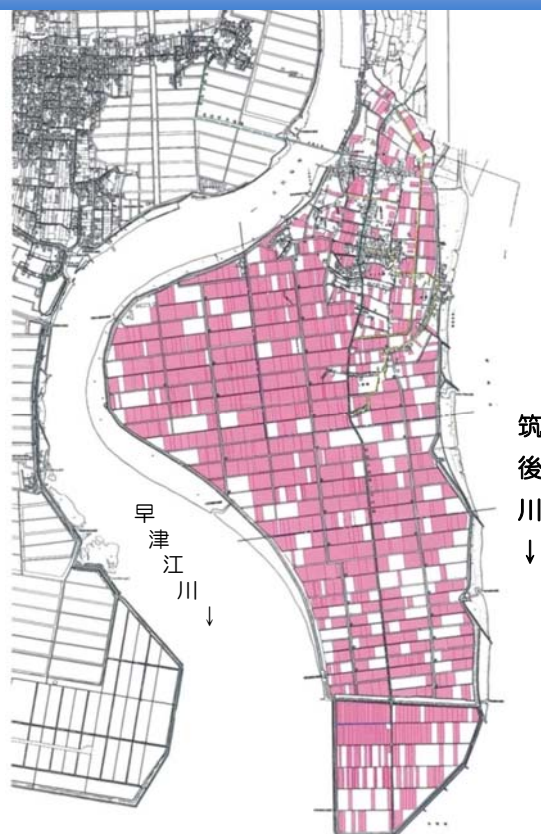
県営地域水田農業支援緊急整備事業 大詫間地区

(農地整備課)

○事業概要



- 事業名 県営地域水田農業支援緊急整備事業
- 地区名 大詫間地区
- 所在地 佐賀市川副町
- 工期 平成18年度～平成22年度
- 総事業費 279,767千円
- 事業内容 暗渠排水 A=329.3ha



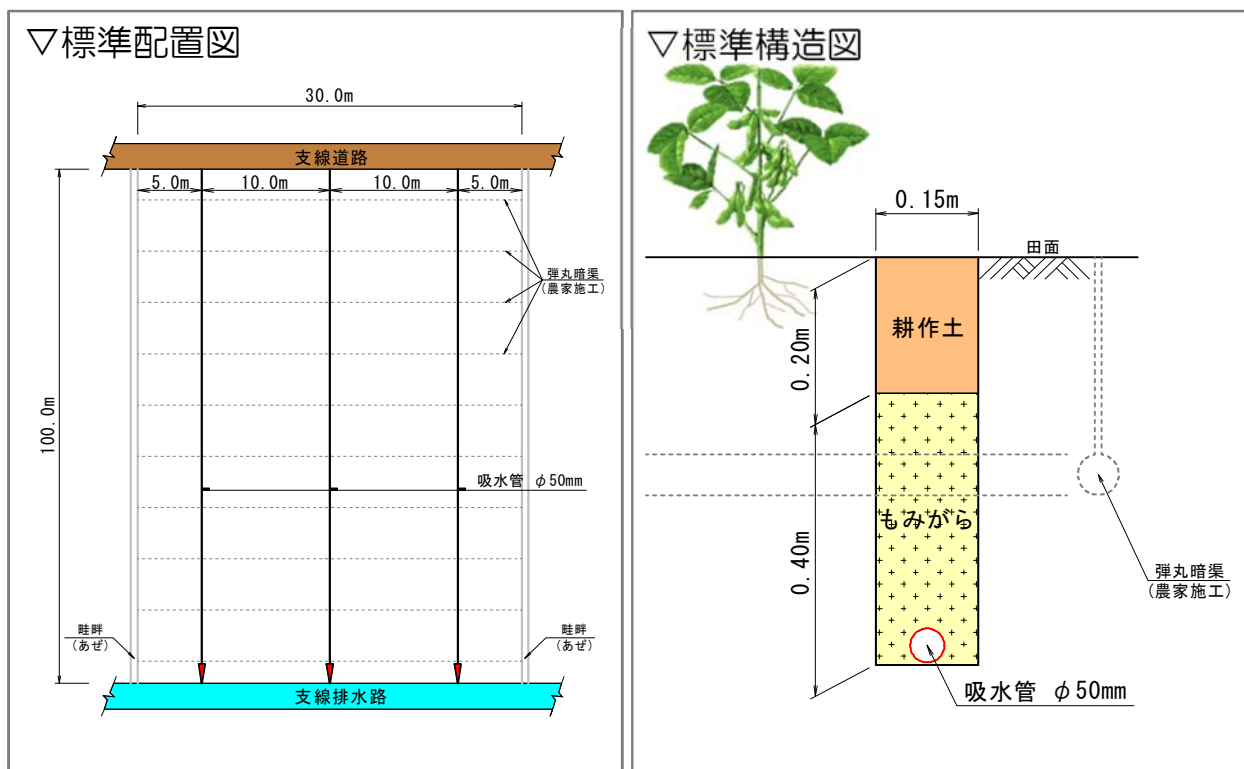
○事業の背景と目的

本地区は、昭和44年～53年にかけて、ほ場整備を実施したが、当時施工した暗渠排水施設の機能が低下し、排水不良となり、農作業や畑作物の作付け、その生育に影響が出ていた。

このため、ほ場の排水対策(暗渠排水)を行うことにより、稲作だけではなく、転作による大豆や野菜、稲刈り後の裏作である麦など、水田のフル活用に向け多様な営農ができるよう、畑作物に適した土壌環境(乾田化)を確保することとした。



○暗渠排水の標準図

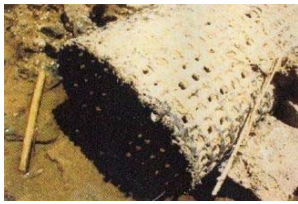


○整備前の状況

機能低下した暗渠排水



排水不良の農地



△ 変形し目詰まりした吸水管



△ 腐食した疎水材（もみがら）



△ 排水が悪い農地

▽ 生育不良の大豆



△ 生育不良の麦

○施工状況

▽ トレンチャーによる施工状況



トレンチャーによる施工
掘削、吸水管の敷設、疎水材（もみがら等）の投入を一連作業で実施。

▽ 疎水材（もみがら）の投入状況



もみがら
全国的に最も多く使用され、安価な疎水材として地元共乾施設等の協力を得て使用している。

○整備後の排水状況

▽ 降雨後の排水状況



30年以上経過した(吐出管)目詰まり等による排水不良

再整備した暗渠排水(吐出管)排水良好

既存の暗渠排水管の中間部に新しく排水管を設置しており、新設の吐出管からは、良好な排水がなされている。

○事業の効果

● 農地の排水条件が改善



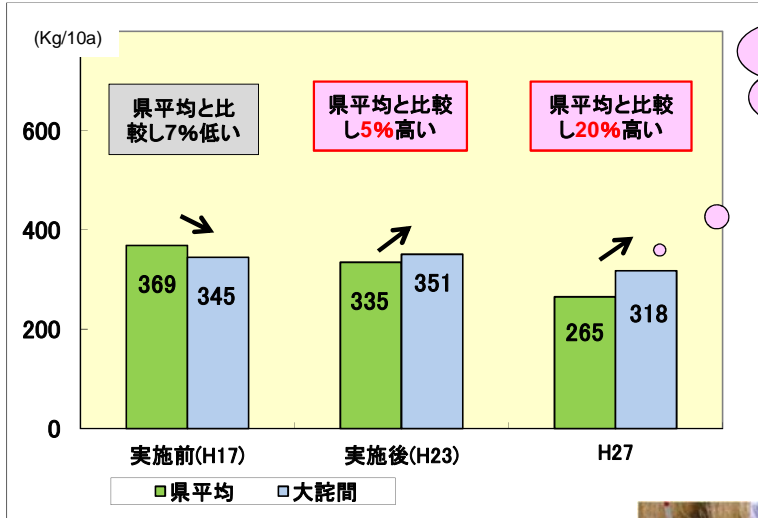
- 乾田化により大型機械の導入が可能になり、労働時間が短縮
- 畑作物の収量増加、露地・施設野菜の栽培面積の増加

● 生産性の高い農地の確保に伴う担い手農家への農地集積が促進



○事業の効果 ◆◇乾田化による畑作物の収量増【大麦】◇◆

▽『大麦』



事業実施後は、毎年県平均単収を上回る収量が確保されている。

▽ 生育が良好な大麦

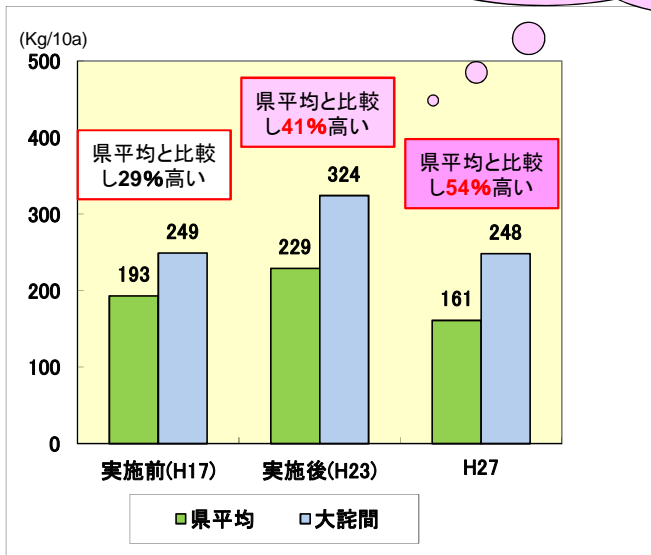


大詫間地区では、小麦も大麦と同程度の作付けをしており、小麦においても、県平均より高収量の成果を持続している。



○事業の効果 ◆◇乾田化による畑作物の収量増【大豆】◇◆

▽『大豆』



県平均収量との比較において、事業実施後の収量は、実施前と比較し、より高い伸びを示している。

排水条件の改善に伴い、生育が良くなり、収量が増加している。



○事業の効果 ◆◇担い手への農地集積率の増加◇◆◆

事業を契機に、担い手への農地集積が加速化！

大詫間地区 農用地面積A=476ha
(うち本事業受益面積A=329.3ha)

項目	地区農地面積 (ha)	担い手経営面積 (ha)	集積率 (%)	備考
事業着手前 (H17)	476.0	140.8	30.0	
事業完了時 (H22)	476.0	207.2	43.5	
現在 (H28)	476.0	454.0	95.3	

暗渠排水の整備により、大型機械での作業効率が良くなり作物の生育も良好な環境となったことから、事業完了後急速に農地集積が進んでいる。

○農家の意見

【メリット】

- 排水の悪い農地だったが、暗渠排水事業を取り組んだことにより作物の生育が良くなり、収量が増加した。
- 排水が良くなり、適期に耕起、播種等の作業が行えるようになったため、作業の効率化と収量増につながった。
- 乾田化したことにより、田面の雑草繁茂が減少し、作業の手間が省けた。
- 担い手への農地集積が進み、大型機械の導入や水管理が楽になった。

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

- 事業名： 地域防災対策総合治山事業（資料 3 - 3 事業番号 1 9）
- 路線名又は箇所名： 田頭地区
- 事業の概要
 - 工 期：平成 1 9 年度～平成 2 2 年度（4 ヶ年）
 - 事 業 費：4 9 4, 5 0 9 千円
 - 事業内容：治山ダム 16 個、山腹工 0.35ha、流路工 41.6m

【公共事業の効果等】

- 荒廃した溪流の溪岸浸食の防止や、不安定な土石の移動防止。
- 水源の涵養など、森林の持つ公益的機能の向上。
- 下流の人家や公共施設等の保全。

【事業実施前の状況等】

- 平成 18 年 9 月 16 日の秋雨前線による集中豪雨（最大時間雨量 92 mm、24 時間連続雨量 351 mm、午前 7 時～午前 11 時の 4 時間で 323mm）により、複数の山腹崩壊が発生すると共に、二つの溪流で土石流が発生し、下流の田頭地区まで土石等が流出した。
- 家屋の全壊 1 戸、損壊 4 戸、橋梁 7 基が破損するなど甚大な被害が発生した。
- 被災後も、降雨時に山腹や溪岸の浸食が進行すると共に、集中豪雨により拡大崩壊や溪流内の不安定な土石が流れ出す恐れがあった。

【事業実施後の状況や県民の声など】

- 治山ダムや流路工の施工により、不安定な土石の移動防止や溪岸浸食の防止が図られた。また、溪岸浸食による濁水の防止が図られ、水質が改善されて環境が良くなった。
- 山腹崩壊地等の緑化により、多様な植物が林床に生育して生物環境が良くなった。
- 森林の再生が進み、景観への影響は発生していない。

（県民の声）

- 豪雨災害発生当時は、土石流により家屋や道路が被災し、恐怖で眠れない日が続いたが、平穏な生活に戻った。
- 治山事業により荒廃溪流や山腹崩壊地が復旧整備された姿を見ると、安心感がある。

公共事業に係る効果等について

地域防災対策総合治山事業

た がしら
田頭地区

(森林整備課)

【事業概要】

事業名 : 地域防災対策総合治山事業

地区名 : 田頭地区

所在地 : 唐津市相知町田頭地内

工期 : 平成19年度～平成22年度(4ヶ年)

事業費 : 494, 509千円

事業内容: 治山ダム 16個、山腹工 7箇所(0.35ha)、
流路工 41.6m

施工位置図



【事業の背景・目的】

○事業の背景(被災状況)

- ・平成18年9月16日の秋雨前線による集中豪雨(最大時間雨量92mm、午前7時～午前11時の4時間で323mm)により、複数の山腹崩壊が発生
- ・二つの溪流で発生した土石流が下流の田頭地区まで流下し、家屋の全壊1戸・損壊4戸、橋梁7基が破損

○事業の目的

- ・被災後も、山腹の拡大崩壊や、溪流内の不安定土石等の流出の恐れがあり、田頭地区上流域の総合的な山地災害治山対策を実施

〈保全対象〉

人家78戸、小学校1校、県道1,700m、田35ha ほか

被災時の状況



施工地の概要



事業効果及び環境への影響（治山ダム）

○事業効果

- ・ 治山ダムや流路工の施工により、不安定な土石の移動防止や溪岸浸食の防止が図られた。

○環境への影響

- ・ 生活環境：溪岸浸食による濁水が防止され、水質が改善された。
- ・ 自然環境：溪岸の緑化により、多様な植物が生育し、生物環境が良くなった。

被災時
(平成18年)



整備直後
(平成22年)



現況
(平成29年)



事業効果及び環境への影響（山腹工）

○事業効果

- ・ 山腹崩壊地の緑化により、山腹の安定や土砂の流出防止が図られた。

○環境への影響

- ・ 自然環境：崩壊地の緑化により、多様な植物が生育し、生物環境が良くなった。
- ・ 社会文化環境：森林の再生が進み、景観への影響は発生していない。

被災時
(平成18年)



整備直後
(平成20年)



現況
(平成29年)



施設の維持管理

- 治山ダム等の構造物については、県により点検・補修等の適切な維持管理を実施することとしている。
- 地元の唐津市では豪雨時における現地調査、市主催の防災パトロール等を通じて適切な管理を行っている。

地域住民の意見

- 豪雨災害発生当時は、土石流により家屋や道路が被災して、恐怖で眠れないが日が続いたが、平穏な生活に戻った。
- 治山工事により荒廃した溪流や山腹の崩壊地が復旧整備された姿を見ると安心感がある。

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

- 事業名： 連続立体交差事業
- 路線名又は箇所名： J R 佐世保線（武雄温泉駅付近）
- 事業の概要
 - 事業期間：平成 1 0 年度～平成 2 2 年度
 - 事業費：約 1 1 5 億円
 - 事業内容：鉄道高架事業 L = 約 3 . 1 k m W = 5 . 6 m

【公共事業の効果等】

- 交通の円滑化
- 良好な都市空間の創出

【事業実施前の状況等】

J R 佐世保線（武雄温泉駅付近）は武雄市の中心市街地を貫通する線路であり、武雄市内の交通ネットワークを形成する街路を踏切により分断しており、朝夕のラッシュ時には交通渋滞が生じている状況であった。

また、J R 佐世保線を境に武雄市の中心市街地は南北に分断され、国道 3 4 号バイパスの供用開始を発端に J R 佐世保線南部の開発が進み、それに伴い J R 佐世保線北部の商店の流出等により空洞化が進んだため、J R 佐世保線南北で均衡のとれた市街地形成が課題となっていた。

【事業実施後の状況や県民の声など】

- 踏切除却により J R 佐世保線南北交通の円滑化が図られた。
- 事業実施前は、鉄道アンダー部の通行について、鉄道高架化により一般的な高さ制限となり、大型車通行等の利便性の向上が図れた。
- J R 佐世保線沿線の土地利用状況の変化により、地域住民等によるイベント開催など、にぎわいが創出された。

（県民の声）

- 振動・騒音の軽減が図られている。
- 踏切による交通渋滞が解消された。
- J R 佐世保線沿線の景観がよくなった。
- 川端通りの住民が主催となったイベントやイルミネーションの設置等により人が集まり活気がでている。

公共事業の効果等について

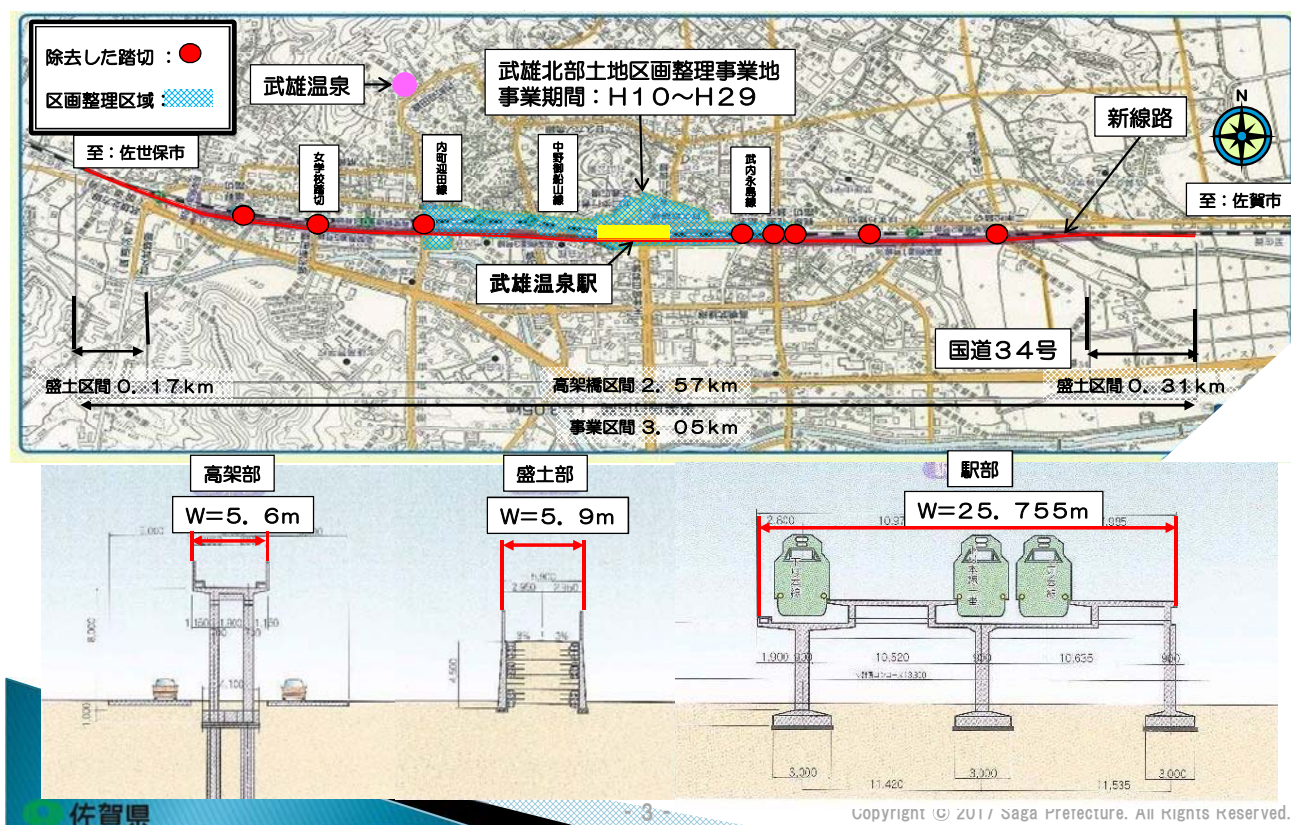
JR佐世保線 連続立体交差事業

都市計画課

◆ 事業概要

- 事業名 連続立体交差事業
- 路線名 JR佐世保線（武雄温泉駅付近）
- 所在地 武雄市朝日町大字甘久～武雄市武雄町大字武雄
- 事業期間 平成10年度～平成22年度
- 事業費 約115億円
- 事業内容 鉄道高架事業 L=約3.1km W=5.6m

◆ 事業位置図



◆ 背景と事業目的

- 当路線は、踏切により街中の道路を分断しており、朝夕のラッシュ時には交通渋滞を引き起こしていた。
- 武雄市の中心市街地は当路線により南北の均衡ある発展の障害となっていた。



- 踏切を除却し、JR佐世保線南北の交通の円滑化を図り、均衡のとれた市街地形成を目指し、土地区画整理事業と一体的に都市基盤の整備を行う。

◆ 事業前の状況

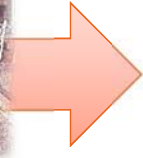


佐賀県

◆ 整備効果

踏切遮断時間約100分/日・箇所解消

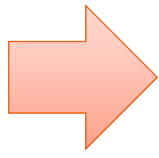
踏切撤去前



踏切撤去後



踏切撤去により約200mの渋滞解消



佐賀県

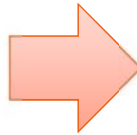
◆ 整備効果

鉄道高架化により一般的な高さ制限となり、
大型車通行等の利便性が向上

鉄道高架前



鉄道高架後



◆ 整備効果

鉄道高架化によりできた空間で地域住民等の
イベント開催によるにぎわいの創出



区画整理事業と一体的整備



高架下を活用したイベント



側道を活用した三輪車レース

◆ 県民の声

- 振動・騒音の軽減が図られた。
- 踏切による交通渋滞が解消された。
- JR佐世保線沿線の景観がよくなった。
- 川端通りの住民が主催となったイベントやイルミネーションの設置等により人が集まるようになり活気が出ている。

etc



Copyright © 2017 Saga Prefecture. All Rights Reserved.